

# 『時事直言』 No.1807 2026年6月1日国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[instagram] [t.masuda2026](https://www.instagram.com/t.masuda2026)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## イラン戦争とトランプの運命

アメリカにとって日米戦争は泥沼化しなかった。

朝鮮戦争は今だに停戦状態のまま終わっていないし、ベトナム戦争は泥沼化でアメリカは北ベトナムに敗れた。

日米戦争で日本には支援国がなかったが、朝鮮戦争では北朝鮮をソ連と中国、ベトナム戦争では北ベトナムをソ連と中国が支援した。

トランプ・習近平首脳会談の直後プーチンは訪中、習近平との首脳会談でイラン支援を確認した。

トランプは、アメリカにとって全く差し迫った危機でないイランの核保有可能性の排除を迫っているが、イランは2015年7月の六か国核合意で核を保有しないことを宣言、以後国連のIAEA(国際原子力機関)の査察の下で濃縮ウランの製造を平和利用のみに押さえていたことが証明され、アメリカを含む六か国は対イラン経済制裁を解除した。

ところが2018年トランプは一方的に六か国協議から離脱し、対イラン経済制裁を始めた。

理由なきアメリカの離脱でイランはIAEAの査察を拒否し、イランの濃縮ウラン製造規制が解かれることになった。

現在イランが核弾頭12発分に相当する450キログラムの濃縮ウランを保有することが出来たのはアメリカが六か国協議から離脱したからである。

トランプはイランに核開発のチャンスを与えておいてイランから完全に核を排除する為には、イランの発電所、橋梁のすべてを破壊することも辞さないと言う。

イランが主権を守り抜くと言う意味は、平和利用の為の濃縮ウラン製造と国連で認められているEEZ(排他的経済圏)の範囲内のホルムズ海峡の制海権である。

イランと不倶戴天の敵の関係にあるイスラエルにとってイランの主権を認めることはイランの危機存続を意味する。

ネタニヤフにすればアメリカを巻き込んだ現在のイラン戦争はイランの主権剥奪、無条件降伏に追い込む最後のチャンスである。

イラン戦争は米軍支援のイスラエル軍とイラン軍との戦争であって、アメリカとイランの戦争ではない。

トランプはイラン戦争から抜け出す素振りをしているが、本音はネタニヤフと同じイランの無条件降伏である。今後、米軍とイスラエル軍がイランの発電所と橋梁を爆破しただけではロシアと中国がバックのイランは無条件降伏しない。

どうしても米軍とイスラエル軍はイラン上陸に踏み切らざるを得なくなる。

ソ連と中国が支援した北ベトナム軍との戦争は泥沼化し、最後はアメリカが敗北した。

ユダヤ資本とイスラエルに逆らえないトランプは、ネタニヤフに泥沼戦に引きずり込まれるだろう。

ブッシュ大統領の湾岸戦争の時は欧州はじめ日本も有志連合としてアメリカを支援したが、イラン戦争ではアメリカの同盟国はすべてそっぽを向いている。

支援国皆無の日本は容易かったが、ロシアと中国支援のイランを無条件降伏に追い込むのは不可能だろう。

イラン戦争によって私利私欲、無法者トランプは排除されることになる。

どちらにでも付ける優れた選択肢である「曖昧」(台湾有事)を、格好よく捨てた高市が困る時が来る。

政治力学については「増田塾」で勉強して下さい。

日本の為になります。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。